

Chiba Rosai News

千葉ろうさいニュース

Vol.5

平成27年1月15日



消化器外科・消化器内科医師

目次

2・3

平成27年に向けての展望

院長 河野 陽一
事務局長 堤 圭介
看護部長 青田 孝子

4・5

当院の消化器疾患チーム

外科部長 宇田川 郁夫
第2外科部長 安富 淳
第3外科部長 草塩 公彦
消化器内科医 渡邊 由芙香
消化器内科医 太田 佑樹
消化器内科医 吉田 直樹

6

ろうさいMini News

ボランティアコンサート

認定看護師のご紹介

救急看護認定看護師
戸崎 愛子

7

連携登録医のご紹介

医療法人社団 整友会
山崎整形外科

8

当院の理念

リハビリ美術館

平成27年に向けての展望



院長 こうの 河野 よういち 陽一

高齢化社会における地域医療に向けて

本年6月には平成23年から開始された増改築工事が終了し、最新のそしてより高度の機能を持った病院として、本院は改めてスタートいたします。すでに昨年より新しくなった入院棟と外来棟で診療が開始されましたが、大規模な工事のために駐車場等が縮小され、ご来院の患者の皆様には大変ご迷惑をおかけしております。長い間のご支援に職員一同感謝申し上げますとともに、今しばらくのご協力をお願い申し上げます。

平成35年を過ぎると団塊の世代が75歳以上になり、全国的に高齢化がさらに進みます。高齢化の動きは千葉県そしてわが市原市も例外ではありません。高齢化社会に向けて、それぞれの都道府県は各医療機関の役割を基に「地域医療ビジョン」を平成27年度より策定することが定められています。このように国の医療政策が動き始めておりますが、子どもからお年寄りまで、また急性期から慢性期の病気まで、バランスのとれた医療体制の整備を、我々は急がなくてはなりません。

医療の仕組みが大きく変わって行く状況の中で、新たな装いとなった千葉ろうさい病院は、市原市と近隣地区の医療圏における高度医療を担う基幹病院としてさらに機能を充実させ、地域の医療をしっかりと守っていく覚悟です。

皆様にとって平成27年が良い1年でありますことをお祈り申し上げます。



事務局長
つつみ けいすけ
堤 圭介

本年2月に当院は開院50周年を迎えます。時代の波に左右されながらもこの地で記念すべき日を無事に迎えることができますのも、皆様方の温かい御支援・御協力の賜物と心より厚く御礼を申し上げます。御陰様で昭和40年に診療を開始して以来時代のニーズとともに変遷を重ね、現在では地域の中核的病院へと成長することができました。また、6月には足かけ5年をかけた増改築工事が終了し50周年という節目の年に再スタートを切る喜びは、私たちにとりましても長年の悲願であると同時に、今後も地域医療を全力で支えていくという決意を再認識させられる機会でもあります。工事竣工後は一新された医療設備・医療機器を備えたより良質で安全な高度医療を提供し、地域の皆様に信頼される中核的医療機関を目指して日々精進する所存でございますので、今後とも一層の御指導・御鞭撻を賜りますようお願い申し上げますとともに、今年1年間の皆様の御健勝と御多幸を御祈り申し上げます。

近年、「病院完結型医療」から地域で安心して暮らせるための「地域完結型医療」という医療・介護連携の構築が求められ、当院でも様々な取り組みをおこなっています。

その中で、「看・看連携」の強化を行うことが、地域で切れ目のない「安全で質の高い医療を安心して受けられる」、さらには医療者の情報交換の場・人材育成の場の充実につながるとして期待されています。これは病院と地域における関係機関両者の看護職がお互いに緊密に連携し、連帯責任をもって協働しながら専門性を発揮していくということです。

そこで私たち看護部はまず、「患者さんが地域に戻っても、その人の望む生活ができるようにするために、“退院支援・在宅療養移行支援”を院内に定着させる」を意識したシステム作りを今年実践していこうと考えています。患者さんの退院後はどこでどのように生活していきたいのか、その自己決定への支援が重要であり、入院時あるいはもっと早い段階から「患者に寄り添う看護」を実践するため、病気のわかっている職種である看護が地域に出て、連携を活発化させていく必要があると考えています。もっとも連携は“退院支援”だけではありません。今後取り組みを拡大しながら、シームレスなシステムづくりを進めていきたいと考えています。



看護部長
あおた たかこ
青田 孝子

当院の消化器

当院の消化器外科について

現在当院の消化器外科はスタッフ6名、後期研修医3名、大学からの医師1名の10名で診療にあたっています。私は当院に赴任して約8年になります。赴任当時の消化器外科手術症例は年間約500例程でしたが現在は約900例近くに達しています。緊急手術も年間約160例程行っています。消化器外科の疾患はたとえ虫垂炎などの小さな疾患でもその診断、手術が遅れると命にかかわるものが多く消化器内科との密な連携がとても大切です。

当院の消化器内科-外科チームはとても垣根が低く、週1回の症例検討会だけでなく問題の症例があればすぐ診断、手術適応につき検討を行って迅速に対応しています。また開業医の先生方からの急を要する紹介患者さんに関しましては休日、夜間を問わず出来るだけ迅速に対応させていただいておりますのでよろしくお願い致します。



腹腔鏡下手術について

腹腔鏡下手術の利点・欠点は?本当に安全なのでしょうか?

約20年以上前から胆嚢摘出術に採用され、急速に普及した腹腔鏡下手術ですが、この10年で大腸や胃の手術にも大きな変革をもたらしています。当院でも2003年1月から腹腔鏡補助下大腸切除術を開始し、年々症例数は増加しています。2013年度では、約130例の大腸切除術のうち8割近くを腹腔鏡下に施行するまでとなっています。創が小さく術後の回復も早いこと、感染や腸閉塞といった合併症も明らかに減少していることなど、患者さんにとって大変有益である事はもちろん、その拡大視効果により手術の Quality も大きく向上したと実感しています。もちろん、手による触診ができないことや、開腹手術に比べて鉗子の可動制限があること、技術的に難易度が高くなることなど、欠点もゼロではありません。当科では安全性と癌の根治性を第一に考え、腹腔鏡下手術の定型化を図り、低侵襲手術のメリットを最大限に生かすべく全員で精進しています。



肝胆膵外科手術

肝胆膵領域の手術はひとたび合併症が起きると重症化することで知られています。年間200例近い手術を行っていますが、根治性を落とすことなく、より安全で、低侵襲な治療を心がけ診療を行っています。急性胆嚢炎に対しては発症早期の腹腔鏡下手術を全国に先駆けて積極的に導入し良好な結果を得ています。このような診療を実現する為には、看護師はもちろん、消化器内科、麻酔科を含めた多職種との協力が不可欠ですが、当院では良好な協力体制が構築できていると自負しております。肝細胞癌に対しても手術療法のみならず、消化器内科の協力のもとラジオ波凝固療法との併用により切除範囲を抑え、より低侵襲な治療を実現しております。膵頭十二指腸切除は消化器外科の中でも大きな侵襲を伴う手術です。以前は術後退院まで1ヵ月以上かかっていましたが、術式の工夫により2週間程度で退院可能となっております。今後も多職種との連携を深めより良い診療を提供できるよう努めていこうと考えております。



疾患チーム

当院の消化器内科について

当院の消化器内科について御紹介させていただきます。現時点で上級医5名、後期研修医3名の計8名で構成されています。午前中は上部消化管内視鏡検査又は腹部超音波検査、午後は下部消化管内視鏡検査を行っています。その検査の合間をぬって、内視鏡室ではESD(内視鏡的粘膜下剥離術)、ERCP(内視鏡的逆行胆道膵管造影検査)、EMR(内視鏡的粘膜切除術)、腹部超音波室ではRFA(経皮的ラジオ波焼灼術)、PEI(経皮的エタノール注入療法)、造影室ではTACE(肝動脈化学塞栓療法)を行っています。各々の専門性はありますが、どの処置にも入り、日々鍛錬しております。

検査時はそれぞれの検査室に分かれますが、消化器内科医は基本的に内視鏡室にすることが多いです。処置で人手が必要になった時もすぐに対応できますし、また、後期研修医の立場としては、上級医に相談しやすい環境にあります。当科のチームワークの良さは、毎日のこのような業務から成り立っているのだと思います。



消化器内科医
渡邊 由美香
わたなべ ゆうか

消化器内科3つの自慢

消化器内科は消化管・肝臓・胆道・膵臓とその守備範囲は広く、炎症から腫瘍まで様々な病気を対象としています。当院では、そんな様々な病気に対して内視鏡・超音波検査などの多彩な手技を生かして診断・治療を行っています。2013年10月より新内視鏡室となり全国にも誇れる最新鋭の設備が揃っており、本年度は前年を上回るペースで内視鏡治療を行っています。

ここでシニアレジデントの私の目からみた消化器スタッフの自慢を3点ほどあげたいと思います。1つ目は経験豊富な指導医の先生方が揃っている点です。それぞれの臓器に対応した頼もしい専門医がおり、優しく指導して下さいます。2点目は消化器内科と消化器外科の連携が非常に良いことです。緊急性の高い患者さんに対し外科の先生方が快く対応して下さる一方で、術後の定期検査などの内科的なサポートもしています。最後の自慢はやや個人的ですが、消化器だけあってグルメな先生方が多く互いに美味しい店を教え合っています。少しでも多くの方々のお役にたてるようにこれからも素晴らしい環境で研鑽を重ねていきたいと思ひます。



消化器内科医
太田 佑樹
おおた ゆうき

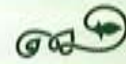
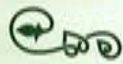
消化器内科の研修

こんにちは。千葉労災病院の後期研修医の吉田直樹です。私たちの病院は、上部・下部内視鏡などの検査件数も多く、その他肝臓癌へのラジオ波焼灼療法や血管内治療、総胆管結石への内視鏡治療などたくさんの治療手技を行っています。とくに最近では、早期の食道癌や胃癌、大腸癌に対する内視鏡治療を積極的に行っており、そういった専門的な治療技術を学ぶために後期研修医が集まっています。

私自身が今とくに力を入れて取り組んでいるのは、総胆管結石や悪性腫瘍に対する胆膵内視鏡を用いた治療手技や大腸ポリープの内視鏡的切除術で、毎日格闘しながら取り組んでいます。上級医の先生方に厳しく指導され、少しずつですが確実にステップアップしていくのが実感でき、非常に充実した毎日です。今後はさらに困難な症例にも自力で立ち向かえるよう日々精進していきたいと思ひますので、今年もよろしくお願ひ致します。



消化器内科医
吉田 直樹
よしだ なおき



院内ピアノ
コンサートを
開催しました



たかつなようこ
高綱陽子眼科部長

11月26日夕方に、ピアニスト近藤和花さんをお迎えし、当院高綱陽子眼科部長とともに患者さんへ向けたピアノコンサートが開催されました。近藤和花さんは、東京音楽大学出身のピアニストで、最近では、ルー



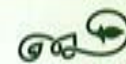
こんどうあえか
ピアニスト近藤和花さん

マニアにて国立バカウ交響楽団とピアノ協奏曲を演奏するなど、国際的に活躍されています。お忙しい中、毎年、当院のピアノコンサートにきていただいております。

夕方の外来ホールにグランドピアノが登場し、会計の待合席の配置をかえ、コンサート会場に変わりました。バッハの曲から始まり、ショパン、リストと二人でお話を交えて小一時間の演奏会でした。音楽を通して患者さんの気持ちが少しでも癒されますように、また、当院の対応が患者さんにとって癒されるものとなり、よりよい治療効果が表われることを願っております。



認定看護師のご紹介



救急看護認定看護師

私は、2008年4月に長崎県佐世保市にある長崎ろうさい病院から千葉ろうさい病院へ赴任しました。当院では、救急・集中治療部が2009年に創設され、その中でこれまでの幅広い看護経験を生かせる分野として救急看護認定看護師を選択し、昨年度認定資格を修得しました。現在は、救急看護認定看護師と外来看護師長補佐を兼務しながら、「実践・指導・相談」の救急看護活動を行っております。

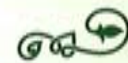
救急看護の対象は、突然の疾病を有する小さいお子さんから高齢者の方まであらゆるライフステージの患者さんやご家族です。救急外来では、呼吸器・消化器疾患、循環器疾患、脳血管障害、外傷、中毒など多種多様な状態の患者さんが、様々な経過や方法で来院されますので、救急医療現場における病態に応じた迅速な救命処置やトリアージの実施が実践活動となります。急変があったらどう対応すれば良いのかなどの現場スタッフの意見に対して、病院内の横断的活動による現場指導や急変時対応研修による急変対応できる看護師育成を行っております。また、救急看護認定看護師には、もう一つ災害看護という役割があります。例年防災週間には、全職員に対する災害時の安全管理研修を行い、平時から有事に備える病院作りを目指してします。

私は「看護」を基盤とした救急看護のスペシャリストとして新たなスタート地点に立ち、今後様々な患者さん・ご家族と向き合い、その人がその人らしく生きることを手助けしていきたいと思います。高度・先進化する急性期医療を支える一員として、救急医療・看護への貢献と質の高い看護が提供できるよう努力し、病院全体の看護の質の向上、チーム医療推進を目指し、日々邁進していきたいと思っています。



救急看護認定看護師
戸崎 愛子
とさき あいこ





山崎整形外科

院長 山崎 祐二 先生



今回は貴院広報誌に投稿の機会をいただきましてありがとうございます。

私は現在生まれ育ちました五井に整形外科を開院させていただいております。幼少時は健康優良児で市原保健所に表彰されたこともあり、私自身が患者として貴院にお世話になったことはありませんが、開院以来は当院の患者さんたちが本当にお世話になっております。整形外科を筆頭に多くの科の先生方に助けていただき、この場をお借りして御礼申し上げます。

私も病院勤務時代は、診療上困ったときには簡単なことから重大なことまで同僚に相談ができましたが今ではできなくなり、診断に難渋した際にすぐに貴院にすがっているのが現状です。つたない紹介状でご相談させていただいているにも関わらず丁寧な返信をいただき恐縮しております。

おそらく、これ以上ないくらい忙しく働いていらっしゃるだろう貴院の方々に言うのも心苦しいのですが、今後も地域医療の基幹病院として貴院の益々のご発展を心から願っております。

医療法人社団 整友会 山崎整形外科 診療案内

〒290-0056 千葉県市原市五井2462-2

電話番号 0436-26-0622

診療科目 整形外科、リハビリテーション科

時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:00 ~ 12:00	○	○	○	○	○	○	休
午後 15:00 ~ 19:00	○	○	休	○	○	休	休

水曜日午後・土曜日午後・祝祭日は休診

千葉労災病院 理念

基本理念

私たちは、地域の人々・勤労者から最も信頼される病院をつくります。

基本方針

- 一．患者さんの権利を尊重します。
- 二．安全で質の高い医療を提供します。
- 三．地域の基幹病院として医療連携に努めます。
- 四．急性期医療・予防医療を担います。
- 五．良質な医療人の育成をはかります。
- 六．健全経営を行い、明るく向上心に満ちた職場をつくります。



リハビリ美術館

当院には患者さんによる作品を集めた美術館があります

「静物」

作／田上信夫さん

編集後記

初夢をご覧になられたでしょうか。めでたい初夢として、まず富士山があがりますが、その富士山が、当院の入院棟から見ることができます。雪を被った冬の富士山は、それは、素晴らしい眺めです。当院の周りには、さほど高い建物が無いことや、海が間に入ることで見やすいのかもしれませんが。マラソンブームの昨今、当院には、富士山を頂上まで一気に駆け登った強者ドクターもいますが、高みを目指し、一步一步、登っていける一年でありたいと願います。

広報委員会 塚田 清一(医事課)